

在宅医療・介護連携推進事業 (病院向け) アンケート結果

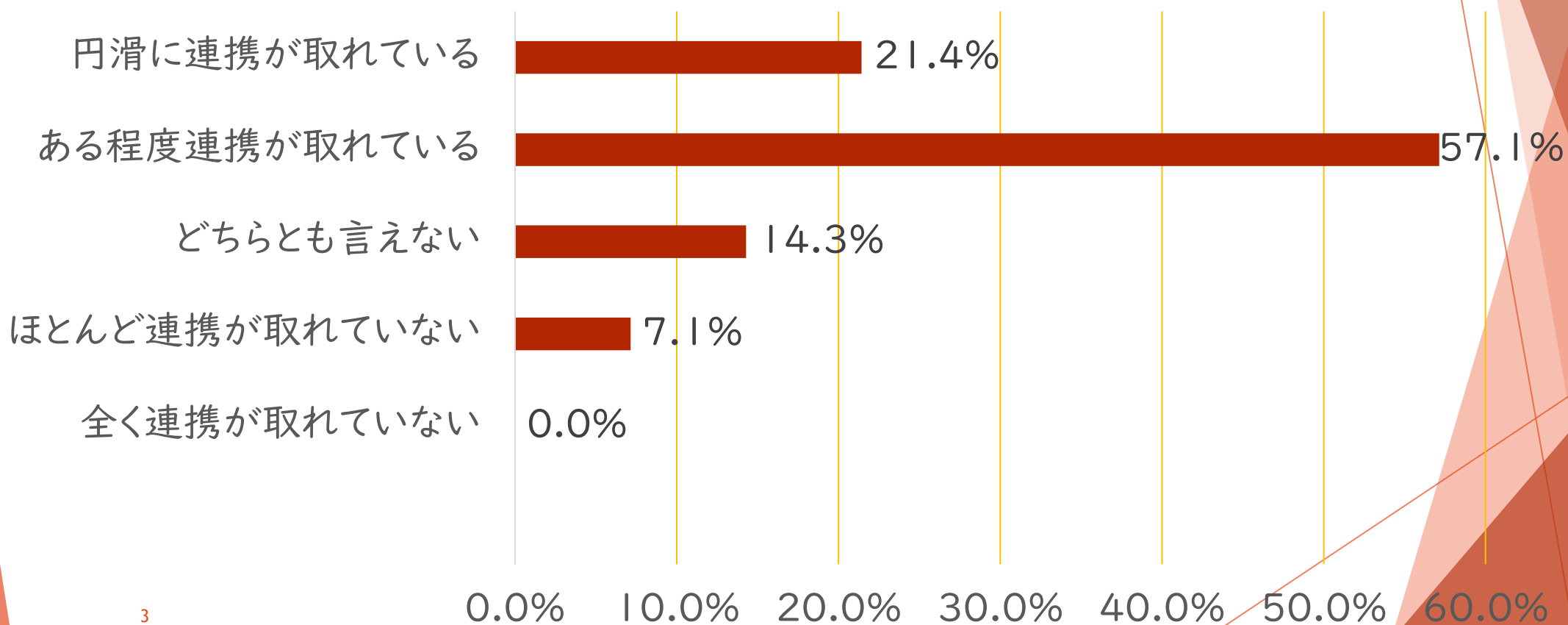
令和8年1月28日(水)

吹田市福祉部高齢福祉室支援グループ

アンケートについて

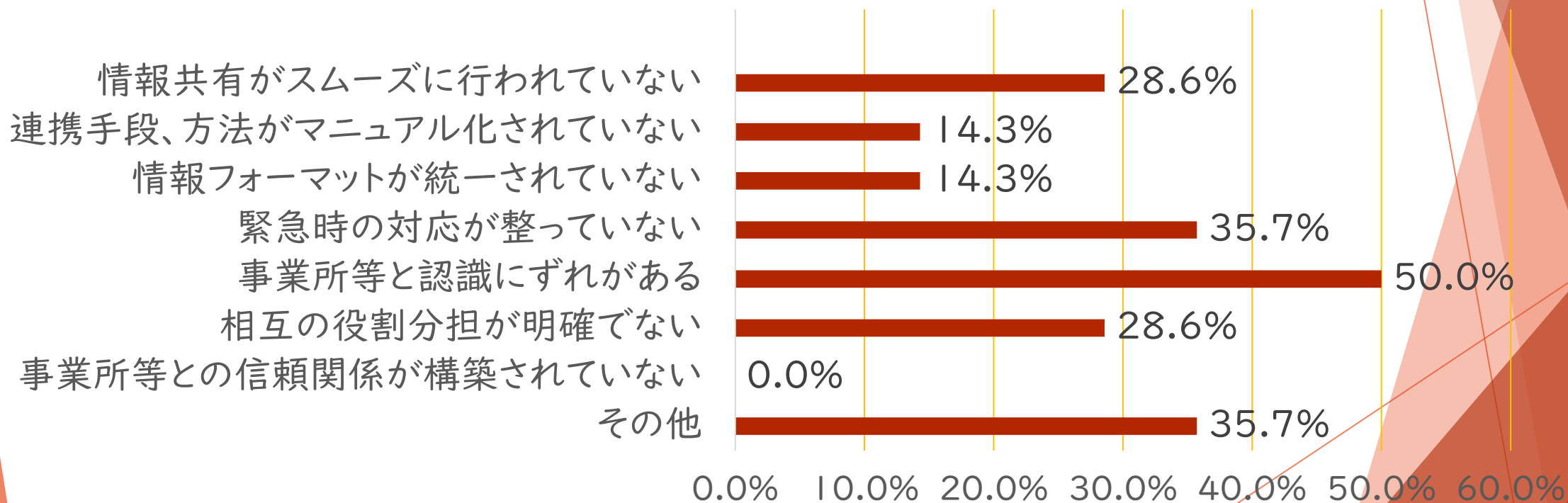
- ▶ 目 的 病院が捉えている、医療と介護の連携に係る現状及び課題の把握のため実施
- ▶ 対 象 市内14病院
- ▶ 時 期 令和7年7月実施
- ▶ 回収率 100%

Ⅰ 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携についての状況



2 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携について、困難に感じていること、連携するために工夫していること①

ア 連携について困難に感じていること（複数回答）

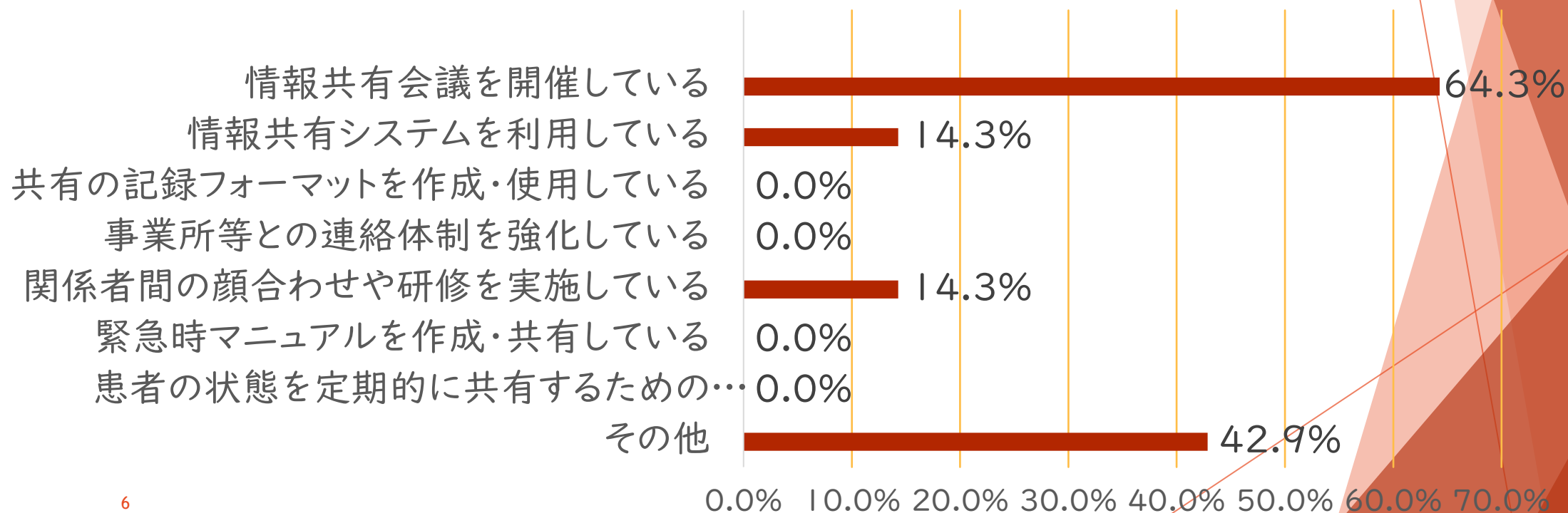


その他記載内容抜粋

- ▶ 退院支援のスケジュールが、急性期病院と在宅支援チーム間でギャップがある。
- ▶ 介護申請したばかりの患者さんの退院時カンファレンスの出席を断られることがある。
- ▶ 情報共有が重要と言われるが、実際の対応と合っていないこともある。

2 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携について、困難に感じていること、連携するために工夫していること②

イ 連携するために工夫していること（複数回答）



その他記載内容抜粋

- ▶ 不明な点があれば担当のソーシャルワーカーや看護師へ連絡することをお願いしている。
- ▶ 入院中、状態変化時に情報共有をと思っているが、十分できておらず申し訳なく思っている。
- ▶ 退院前には診療情報提供書や看護サマリーをFAXし、退院後に必要なサービスや困り事については電話にて報告・相談をしている。必要に応じて退院前カンファレンスへの参加を呼び掛けている。
- ▶ 関係者間の顔合わせや研修を実施している。

3 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携において、改善してほしい点や強化してほしい点（自由記載）抜粋

- ▶ 入院時の情報提供シートのACP欄が空白になっているものが散見される。少しでもご本人・ご家族の想いを記載していただけるとありがたい。
- ▶ 地域活動がいつどこでどのような内容で行われているのかタイムリーに知りたい。
- ▶ 介護サービス等の主治医（医師）意見書はまず「かかりつけ医」に依頼していただきたい。短期入院（1週間以内）においても依頼される場合が多い。
- ▶ 要介護認定新規申請中の方への対応をもう少しスムーズにお願いできるとありがたい。特に軽い介護度で出そうな方に関して、結果が出ていないと対応は難しいと言われ、退院が進められず困ることがある。

4 より良い連携体制構築のために、どのような取組が必要か（自由記載）抜粋

- ▶ 入院した患者の在宅でのケアプラン・サマリーは入院がわかった時点でFAX等で連絡いただきたい。ほとんどの事業所においてはその様にしているが、そうしてもらえない事業所もある。
- ▶ 提供すべき情報を知り看護サマリーに活かしたい。
- ▶ ICTの活用（特にメール）。
- ▶ 地域の関係機関の方に来院いただくだけでなく、退院前・退院時の自宅訪問やカンファレンスなど機会を見つけて地域に出て行くこと。
- ▶ お互い言語化して何を求めているのか、どう対応してほしいのかわかるように伝えることも重要だと思う。その基盤になるのは地域での共通の連携手順の形成や、事例検討かと考える。